

予算編成の基本的な考え方

1 国の当初予算と地方財政対策

国の「経済・財政再生計画」の集中改革期間の最終年度となる平成30年度当初予算案は、経済再生と財政健全化の両立を実現する予算の編成方針に基づき、一般会計予算規模を9兆7,128億円（前年度比0.3%増）として、平成29年12月22日に閣議決定されました。

歳入では、税収の増を見込み、新規国債の発行を前年度から6,776億円減額したことから、公債依存度が0.8%下がって34.5%に減少し、歳出では、社会保障の持続可能性を確保するため、社会保障関係費の伸びが「経済・財政再生計画」の目安に沿って抑制されたものとなっています。

また、地方財政計画の規模は、8兆9,000億円程度（前年度比0.3%程度増）であり、景気の緩やかな回復基調から、地方税収入や地方交付税の原資となる国税収入の増加が見込まれるものの、社会保障関係費の自然増が見込まれることなどにより、収支の不足額が6兆1,783億円となり、うち3兆9,865億円を臨時財政対策債の発行により補てんすることとしています。

2 当初予算編成の基本姿勢

知立市の平成30年度当初予算は、第6次知立市総合計画の将来像である『安らぎ・にぎわう 住みよさを誇れるまち「輝くまち みんなの知立」』の実現や、知立市人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に向けた事業などに限られた財源を有効に活用し、優先順位を決めて予算の編成を行いました。

また、財政の弾力性を示す経常収支比率が、平成28年度決算で94.1%となり、財政の硬直化が進んでいる厳しい財政状況下にある危機感を十分に認識し、予算の編成を行いました。

具体的には、新たな経常経費となる事業については、経常的な特定財源の確保やスクラップアンドビルドの考え方を基本とするとともに、これまでに取り組んできました事務事業の「統合化・共同化」に加え、道路照明灯などのLED照明への切替えや、国の地方公共団体カーボン・マネジメント強化学業を活用した公共施設の省エネ対策の検討など、新たな経費節減方策となり得る事業に予算を計上し、長期に渡って安定的かつ健全な財政基盤を確立することを基本姿勢としています。

3 当初予算の概要

予算の規模は、一般会計・特別会計・企業会計の総額で3兆7,410万円（前年度比0.4%増）と過去2番目の規模となりました。

内訳は、一般会計2兆3,500万円（前年度比3.1%増）、特別会計1兆1,910万円（前年度比4.6%減）、企業会計2兆6,000万円（前年度比0.1%増）です。

4 一般会計の概要

歳入面では、市税全体では、119億9,353万2千円で、前年度当初予算から2億5,488万8千円の増額（前年度比2.2%増）を見込んでいます。

地方交付税は、交付実績及び推計予測から1億8,000万円で、2,000万円の減額（前年度比10.0%減）を見込んでいます。

国庫支出金は、平成29年度において国の平成28年度第2次補正予算の成立に伴い、関係経費を前倒しで平成28年度補正予算に計上した影響などもあり、2億4,481万3千円増額（前年度比7.5%増）の35億1,025万円を見込み、県支出金は、県知事選挙委託金などの増額が見込まれるものの、区画整理事業県負担金などの減額により、前年度比0.1%減の15億2,228万9千円を見込んでいます。

寄附金は、国からのふるさと納税に係る返礼品の送付等に関する通知を受けて、平成29年12月から返礼品の返礼割合などの見直しを行った影響によるふるさと応援寄附金の減額から、前年度比19.8%減の8,100万6千円を見込んでいます。

繰入金は、財政調整基金からの繰入額を減額するものの、都市計画施設整備基金及び学校施設整備基金の繰入額の増額により、9,494万5千円増額（前年度比6.6%増）の15億3,382万2千円を見込んでいます。

市債は、知立連続立体交差事業などの普通建設事業費の増から、1億1,630万円増額（前年度比8.1%増）の15億5,650万円としています。

一方、歳出面の目的別増減は、総務費では市議会議員一般選挙などの執行による選挙費の増などにより3,121万8千円の増額（前年度比1.6%増）、民生費では生活保護費の減などがあるものの、国民健康保険特別会計繰出金や介護保険特別会計繰出金の増などにより2,487万8千円の増額（前年度比0.3%増）、商工費では中小企業再投資促進事業費補助金や駐車場用地購入費の減などにより1億3,009万8千円の減額（前年度比32.8%減）、土木費では花園里線整備事業や知立駅周辺土地区画整理事業の増などにより7億6,914万8千円の増額（前年度比16.0%増）、消防費では衣浦東部広域連合負担金の増などにより2,030万2千円の増額（前年度比2.8%増）を計上しています。

歳出面の性質別増減は、義務的経費では、扶助費が前年度比2.3%増の見込みであるほか、人件費及び公債費もそれぞれ増額が見込まれ、全体で1億7,237万7千円の増額（前年度比1.7%増）、投資的経費では、知立連続立体交差事業をはじめとする普通建設事業の伸びにより、3億8,522万円の増額（11.7%増）、その他経費では、物件費、維持補修費、補助費等及び繰出金の増などにより1億4,740万3千円の増額（前年度比1.6%増）を計上しています。

次に、平成30年度における主要事業として、

『第1章 人と環境にやさしく、健康で安心して暮らせるまちづくり』においては、

- ・ 補助対象事業者に地域の同意を得た町内会を加える防犯カメラ設置費補助金交付事業
- ・ 地域福祉の推進や魅力発信を行う昭和未来会議推進事業
- ・ 著しい自傷・他害行為のある強度行動障害者本人やそれを支える家族の安定した生

活を支援するため、強度行動障害者の短期入所などの利用を受け入れる事業所に補助金を交付する強度行動障害者支援事業

- ・ 相談件数や複雑な案件の増加に対応するため、相談員を増員し、7人体制とする障害者相談支援事業
- ・ 自殺対策を総合的に推進し、自殺の防止を図り、健康で生きがいを持って暮らすことのできる社会の実現に寄与するため、自殺対策基本法に基づく市町村自殺対策計画を策定する知立市こころ応援計画策定事業
- ・ 歯の健康を維持し、健康に食べることの重要性を広く市民に啓発するため、対象者への受診勧奨や表彰などを行う9020歯科健康診査・表彰事業
- ・ 新たに各自主防災会が災害応急活動をする際に被害情報や安否情報を一目で共有することができる地図を作成し、避難行動要支援者の救助などに活用する自主防災活動活性化事業

『第2章 人々が集う交流のまちづくり』においては、

- ・ 平成32年度に市制50周年を迎える知立市にふさわしい周年事業のあり方などを検討する市制50周年事業
- ・ 農に触れる人を増やすイベントなどを開催し、農への関心や理解を高め、生産から消費までのサイクルを作るかきつ畑プロジェクト推進事業
- ・ 八橋かきつばた園のかきつばた池の土壌入替えを実施し、かきつばたの生育を図る八橋かきつばた園整備事業
- ・ 観光に関する情報を発信し、観光客と市民との交流を図り、知立市マスコットキャラクター「ちりゅっぴ」と触れ合える機会の提供などを行う観光交流センター管理運営事業
- ・ 幹線市道の舗装を保全し、自動車の安全で快適な走行を確保する幹線市道路面緊急補修事業
- ・ 歩行者の安全確保や車両交通の円滑化を図るため、踏切拡幅や交差点改良を行う知立中央通線道路改良事業
- ・ 歩道を設置し、歩車道を分離することで歩道空間の充実や歩行者の安全確保を図る東上重原西中線歩道整備事業
- ・ 排水能力の改善のため、排水経路を再検討する前田排水路改修事業
- ・ 市北東部地域の発展等に寄与する幹線道路を整備する八橋東西線整備事業及び花園里線整備事業
- ・ 100年に一度のまちづくりとしての知立連続立体交差事業、これに伴う周辺整備としての知立駅周辺土地区画整理事業、知立環状線整備事業、知立南北線整備事業、知立連続立体交差関連事業、西新地地区土地利用計画調査事業及び知立駅南土地区画整理事業
- ・ 知立駅北地区市街地再開発組合に施設整備費等の補助を行う知立駅北地区市街地再開発事業

『第3章 次代を担う子どもを豊かに育むまちづくり』においては、

- ・ 子ども・子育て支援法に基づく次期5か年計画を策定する子ども・子育て支援事業計画策定事業
- ・ 老朽化が進む施設の計画的な長寿命化を図る保育園保全事業
- ・ 児童厚生員を3人増員し、児童クラブの開所時間を午後7時まで延ばす児童クラブ開所時間延長事業（児童厚生員増員）
- ・ 来迎寺子育て支援センターを来迎寺児童センター内に移転し、子育て支援センター移転後の同スペースを保育室として活用し、0・1歳児の定員の増員を図る待機児童対策事業
- ・ 肢体不自由が主な障がいである児童生徒が刈谷市立特別支援学校で義務教育を受ける際に、同校に在籍する児童生徒の人数に応じて運営費を負担する児童・生徒支援事業（刈谷市立特別支援学校通学者負担金）
- ・ 35人学級を小学校全学年で実施する少人数学級事業
- ・ 知立小学校校舎の長寿命化改良工事の実設計画を行う小学校保全事業

『第4章 互いの人権を尊重し、思いやりの心を育むまちづくり』においては、

- ・ 国の第4次男女共同参画基本計画などを踏まえた次期10か年計画を策定する第3次知立市男女共同参画プラン策定事業

『第5章 芸術や文化を大切にすまちづくり』においては、

- ・ 知立市の代表的な歴史遺産である「東海道池鯉鮒宿」の様子を克明に記した「宿並絵図」を購入し、歴史民俗資料館に展示するなど、保存・活用をする東海道池鯉鮒宿並絵図活用事業
- ・ 文化会館に展示している山車の水引幕・大幕・前幕を新調するユネスコ登録記念事業（文化会館展示用山車幕新調事業）
- ・ 福祉体育館のエレベーターを最新の安全基準のものに更新し、利用者の安全確保を図る福祉体育館エレベーター更新事業

『第6章 知立が輝くための仕組みづくり』においては、

- ・ 道路照明灯などのLED照明への切替えに向けた具体的な計画（LED照明導入計画）を策定する公共施設のあり方検討事業（道路LED照明灯等導入調査事業）
- ・ 平成28年5月に閣議決定された「地球温暖化対策計画」に即して具体的かつ実効性のある「地方公共団体実行計画事務事業編」を策定し、その推進体制を整備する公共施設のあり方検討事業（カーボン・マネジメント強化事業）
- ・ 知立市の窓口で旅券の受付及び交付事務を行うための旅券事務事業などを行います。

『その他の主要事業』においては、

- ・ 知立市の都市計画に関する基本的な方針を示し、今後のまちづくりの将来像を示す知立市都市計画マスタープランを改定するとともに、知立市の緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画である知立市緑の基本計画を改定する知立市都市計画マスタープラン・緑の基本計画策定事業
を行います。

5 特別会計の概要

国民健康保険特別会計の歳入歳出予算の総額は、前年度比15.2%減の52億780万円となりました。これは、平成30年度からの国民健康保険の県単位化や被保険者数の減などによるものです。

公共下水道事業特別会計の歳入歳出予算の総額は、前年度比13.9%増の23億3,070万円となりました。これは、他事業関連の支障移転事業費の増によるもの、また、平成29年度において国の平成28年度第2次補正予算の成立に伴い、関係経費を前倒しで平成28年度補正予算に計上した影響などによるものです。

土地取得特別会計の歳入歳出予算の総額は、前年度比86.5%減の150万円となりました。これは、平成30年度においては、土地の取得などの事業が見込まれていないことによるものです。

介護保険特別会計の歳入歳出予算の総額は、前年度比2.3%増の34億1,160万円となりました。これは、主に要介護者等の増加により、介護サービス費等の増が見込まれることによるものです。

なお、平成30年4月より、要介護状態となった場合においても、可能な限り地域において自立した日常生活を営むことができるための施策として新たに3事業（在宅医療・介護連携推進事業、生活支援体制整備事業、認知症総合支援事業）を実施し、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けられる地域包括ケアシステムの構築を推進します。

後期高齢者医療特別会計の歳入歳出予算の総額は、前年度比1.7%増の7億9,750万円となりました。これは、被保険者数の増加などに伴う後期高齢者医療広域連合納付金の増によるものです。

6 企業会計の概要

水道事業会計の収益的支出及び資本的支出の総額は、前年度比0.1%増の20億6,000万円となりました。これは、資本的支出において、知立浄水場、八橋配水場などの老朽施設更新事業や、災害時応急資機材等整備事業などの増によるものです。

以上、健全な財政基盤に配慮しながら、多くの事業について予算計上を行い、市民の皆様方に信頼していただける市政運営となるよう、平成30年度当初予算を編成しました。